

同じ品名で複数の物品コードを持たせることについて

08/01/08

ある物品に、伝票処理の都合によって複数の物品コードを持たせる場合がありますが、その場合のルールを以下の様に定めます。このルールを徹底していただき、正しい伝票処理を行っていただきますようお願いいたします。

1. 同じ品名で複数の物品コードを持たせる事について

物品コードは原則として一物品に一コードであり、同じ品名の物品に複数の物品コードを採番することはできません。(但し、荷姿・入目違いの場合はコードの7桁目を変更して対応しています)。しかし、伝票処理の都合で別物品として扱いたい場合は別の物品コードを採番し、その物品コードで伝票処理を行うことがあります。

今までは担当者ごとの判断で処理を行ってきましたが、動いている物品のコードを簡単に変更してしまうとは統計データとして問題となりますので、同じ品名の物品に複数の物品コードを持たせることのできるルールを定めます。

2. 同じ品名で複数の物品コードを持たせる事ができる場合

受託製品用の有償支給・無償支給原料、いわゆるOEM品の原料

ユーザ支給の原料の場合、その在庫は自社原料の在庫と別々に管理する必要がある為、物品コードを分けて管理する方が都合が良いこととなります。この場合、物品コードの上5桁が違ふコードを採番します。物品更新票の起票時、品名にユーザ名を入れるなどしてOEMということが明確に分かるようにし、他の用途では使用しないで下さい。

特定の条件の場合のみ単価が異なる場合

例えば、転売品で、あるユーザに特に安い単価で動くので、そのユーザ向けの時のみメーカからの仕入単価も安くする場合、同じ品名の物品の仕入単価が二重になってしまいますので、一つの物品コードでは管理出来ません。よって、単価が違う二種類の物品として扱うように別の物品コードを採番します。

尚、製品・原料も同様とする。

その他、伝票処理の都合で複数物品コードを持った方が明らかに伝票処理の間違いが少なくなる場合

物品コードを新規に採ってよいのか判断が難しい場合は、[ITS](#)まで問合せてください。

なお、いずれの場合も次のどちらかの条件に該当する場合に限ります。

池田グループ内の単一の会社のみで使用している物品コード。

池田グループ内の複数の会社にもたがって使用している物品コードで、全ての会社へ渡って複数のコードを持つことが可能な場合。

また、同じ品名の物品に複数のコードを持たせる場合は、その理由を物品更新票の備考欄に記入して下さい。

以上